

当研究所教職員を対象とした AED 使用講習会(第 8 回)を実施しました(2026/1/20)

テーマ：質の高い胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）、119 番通報
場 所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2026 年 1 月 20 日、宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所において、災害科学国際研究所 AED 使用講習会（第 8 回）を開催しました。当研究所教職員 10 名が講習を受講しました。東北大学病院須藤剛志氏（看護師）、総合地域医療研修センター今井浩之氏（救急救命士）が講師を務め、当研究所の佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が講習サポートを行いました。

当講習会は、大阪ライフサポート協会の PUSH Project に基づく本格的な講習会です。①質の高い胸骨圧迫、②AED 使用、③意識・呼吸確認について、それぞれウェブ教材視聴後に実技講習を繰り返しました。傷病者役のシミュレーター上に圧迫深度・回数の過不足を測定するモニターを設置し、受講者は質の高い胸骨圧迫を実施できているか確認しながら技術を修得しました。総まとめとして④傷病者の発見から接触・意識の確認・応援要請・AED・119 番通報の依頼・呼吸確認・胸骨圧迫・AED 使用を一連で実践し、約 1.5 時間の講習を終了しました。楽しい雰囲気ながらも、人が倒れた際のリアルな対応に緊張の面持ちで受講者は実技を繰り返しました。「嘔吐があった際の対応は？」「AED による除細動が必要ない場合もあるのか？」など、受講生はその都度疑問点を解消しながら学習を進めました。1 分間の胸骨圧迫ですら息が切れるほど労力であることを玉の汗をかきながら経験し、受講者は意識を失った人を助けるには迅速な対応と多くの人手が必要なことを実感しました。講習修了後、受講した教職員は自発的に所内の AED 設置場所を確認に向かいました。

当研究所では、このような実践的な教職員研修をこれからも継続していきます。



致死性不整脈について
ウェブ教材を視聴する教職員



胸骨圧迫の深度・回数を測定
中。額に汗するほどたいへん



協力して胸骨圧迫・
AED パッド装着を行う



須藤先生・今井先生と
参加者全員で